

# まちだ防災カレッジ

MACHIDA BOUSAI COLLEGE

12  
2023

## 《特集》

イベントの夏を終えて

### 大盛況の防災フェスタ

楽しむことが大切

### アウトドア防災キャンプ宿泊体験

ご協力ありがとうございます

### 地域備蓄の受け取り

みんなの疑問？

### ペットと一緒に避難できるの？

# ブーム到来、 アウトドア防災

担当者にインタビュー

# 「防災フェスタ」楽しみながら防災を学ぶ

## 防災フェスタについて

防災フェスタとは：

2023年度町田市総合防災訓練の一環として、2023年7月22日(土)に町田シバヒロで開催したイベントで、「子どもから大人まで楽しむことのできるイベント」がコンセプト。

主な内容は、東京消防庁や警視庁、自衛隊をはじめとした町田市の防災関係機関による体験ブースや太田プロダクション所属芸人「チャイム」とアウトドア防災ガイド「あんどどうりす」による講演会を実施。  
イベント当日は、天気にも恵まれ、延べ3000人の方にご来場いただきました。

### 総合防災訓練の抱えていた課題

これまでの総合防災訓練では、防災関係機関による災害演習や啓発イベントを一日にまとめて行っていました。  
しかし、この実施方法では、天候や感染症等の不測の事態に対応することが難しく、実際に、近年の総合防災訓練の実施状況は、2019年度から台風による中止、2020年度は台風による中止、2021年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ中止または規模縮小を余儀なくされました。  
この状況を打破するため、企画段階で実施内容や実施形態をゼロベースで見直し、これまでと異なる形で開催することといたしました。

### 総合防災訓練をリニューアル

2023年度の総合防災訓練は、各種の訓練日程を予め分散させ「通年型」の開催方法と変更いたしました。

啓発面では、今後の防災の担い手づくりを目指し、子どもを中心とした幅広い世代が楽しみながら防災について体験を通して学ぶことのできるイベントとして「防災フェスタ」を企画しました。

実動面では、総合防災訓練の演習部分の内容をより深めて実施する救出救助訓練や庁内の各部の所掌事務を確認するための町田市対策部訓練をはじめと町田市として発災時に円滑な対応を実行できるような必要な訓練を日程を分散して実施いたしました。

### 防災フェスタを終えて



#### 全体として

防災へ興味を持っていただくきっかけとして防災フェスタを企画しましたが、今回は多種多様な防災に関する体験ブースを協力機関の方に出展していただきたくさんのご来場者さまに楽しんでいただくだけではありません。  
特に、小さなお子様が楽しんで防災に関する興味を抱き、ご両親に質問している姿を見てこのイベントを企画してよかったです。少しでも防災フェスタを通じて、災害対策を身近なものとして捉えるきっかけとなれば担当者としてはうれし限りです。

### イベントを通じて印象に残ったこと



VR防災体験車

東京消防庁や警視庁、自衛隊の展示、ドローンやユニーク車の操縦体験など、普段あまり見ることのできない車両やできない体験が印象に残っています。  
特に印象に残ったのは東京消防庁のVR防災体験車でした。車内がかなり大きいので、搬入搬出の検討等の準備にかなり苦労したのも印象に残っている要因かもしれません。VR映像と座席の揺れを掛け合わせ、通常の起震車よりもリアルな震度体験が可能でした。

また、アウトドア防災ガイドのあんどどうりすさんとお笑い芸人のチャイムさんに午前・午後1回ずつ計4回講演を実施していただきました。  
あんどどうりすさんには防災に活用できるアウトドア知識やグッズをデモンストレーションを交えて紹介していただき、帰ってからすぐに使いたくなるようなお話をかりました。  
チャイムさんには、防災に関する面白おかしく漫才をしていただき、防災を学びたくなるきっかけとなるような講演会でした。

### 出展・講演会情報

#### 出展協力機関一覧

- 東京消防庁、自衛隊第1師団第1施設大隊第2中隊、東日本段ボール工業組合、東日本電信電話株式会社、東京西支店、株式会社ジェイコム湘南・神奈川県・川崎局、一般社団法人ジャパネットエネクラブ、バクサ株式会社、警視庁、町田警察署・南大沢警察署、株式会社三和、社会福祉法人 町田市社会福祉協議会、町田市農業協同組合、東京ガスネットワーク株式会社、東京西支店、東京都水道局町田サービスステーション、防衛省自衛隊東京地方協力本部、町田募集案内所、KDDI株式会社、町田南関東支社、町田市管工事協同組合、日本郵便株式会社、町田郵便局、東京電力パワーストック株式会社、多摩総支社、リッド株式会社、関東支社、都総務局総合防災部防災計画課、一般社団法人 町田市建設業協会



関係団体集合写真

#### 講演会講師紹介

◆チャイム  
赤プルとどんな松丘慎吾(まっおかしんご)の夫婦漫才コンビです。  
赤プルは2017年に防災士の資格を取得し、最近では、各地の防災イベントで防災普及に努め、また昨年度は町田市主催の東京マイ・タイムラインセミナーでも講師を務められました。

◆あんどどうりす  
阪神大震災被災体験とアウトドアの知識を生かし、2003年より全国各地で講演活動を展開。毎日の生活を充実させるヒントがたくさんあると親達の口コミで全国に広まり、毎年の講演回数100回以上と、日本各地で活動行っております。



上:チャイム、右:あんどどうりす講演のようす



記事担当者  
地域防災担当  
K

防災課3年目。  
町田育ちの若手のホープ。体が大きく、見た目はちょっと強面だが、やさしい心の持ち主。  
蜂蜜をこよなく愛する男です。



# アウトドア防災キャンプ宿泊体験

## 頑張らない防災

### 新たな切り口を

玉川学園前駅から急な坂道を登ること10分。見えてくるのは丘のほぼ頂上に位置する町田第五小学校。今回、9月9日に「まち」防災の日の一環で、アウトドアをテーマとした防災イベントが開催された。

防災カレッジ2年目の今年は、アウトドアを楽しみながら、防災をより身近に感じてもらうことを目指している。

少し前のことにはなるが、感染症が拡大し何かと「自粛」とされていた頃、「密」を避ける方法として、アウトドアが注目された。若い世代を中心として、キャンプブームがやってきたのである。

今でこそ、ブームは落ち着いてきたものの、アウトドアでは、水や電気が限られ、自分で寝床を準備をする等、災害時に活かせるノウハウが積みこまれているのは想像しやすい。アウトドアのノウハウは防災にリンクする部分が多い。



あんどურიすさんの講演

### 避難施設での開催の意味

小学校を舞台に開催した今回のイベントだが、発災時の小学校は、避難施設として多くの人が避難する場所となる。イベント参加者の方々は、

- ・避難施設を知ってもらおう
- ・在宅避難の知識を深めてもらう

という2つの狙いがあった。

普段子どもたちが通っている小学校は、発災時、どのような機能するのか、知らない人は多い。避難施設について、知っている人の多くは、町内会自治会の防災部門を担う人であろう。そこで、幅広く避難施設の情報を知ってもらうため、慣れ親しんだ小学校を舞台とすることで、親子世代に参加してもらえた。

そして、最も重視したのが、在宅避難のノウハウを高めること。以前、とある地域の開設訓練で、「この体育館は〇人が収容可能と伝えると、うちの町内会員全員入らないじゃない」との声があった。

「大地震」避難施設に避難できない。地震が起きたとき、避難施設に避難しなきゃいけないというバイアスが未だにどこかに存在している。全市民が避難施設に殺到してしまっただけでは、運営どころではない。

避難施設は、家が倒壊や焼失してご自宅で避難生活を送ることができない人が生活する場所である。これをいかに伝えていくか。一番は、実際に模擬体験してもらうことである。

こうした理由から、町田第五小学校にて、キャンプ宿泊体験という形にして開催に至った。

内容はもはや遊びの領域

参加者が体験した内容は、テント張り、火おこし、カセットコンロを使った調理、出張力フエ、焚火、朝ヨガ、そして急遽、子どもたちを対象に行った肝試し。お楽しみキャンプさながらの内容である。

世間的にも、防災は不便や我慢を強いられると思われがちだが、これは誰しもがわかっているが、お金がかかる、めんどくさい、忘れてしまう等の理由により、どうしても各家庭での対策が進んでいない。

スポーツも勉強も、「楽しい」から入ると、身につくレベルや理解度がぐっと上がる。そこで防災でも、皆さんが楽しみながら関心を持ってもらえよう。防災に関する取り組みが全国各地で始まっている。行政は行政としてまっぴりやっていますが、行政らしいことばかりやっているのでは、啓発も進まない。

### アウトドア防災のすすめ

参加者アンケートでは、助け合えたことがよかった「家にあるものでも、工夫次第で災害に備えられる等の声があった。

一方、避難施設として運用し



記事担当 地域防災担当 Y

防災課3年目、町田育ち。見た目に似合わず、学生時代は地震研究をしていた。好きな食べ物、干し芋。日々、おいしい干し芋を探し求めています。

ていくうえで課題も多く見つけた。夜になると、テントを張るロープにたまり、毛布を受けたり、気温が下がると、テントの中ですり続ける姿勢でいるのは辛いという声もあった。

アウトドアシーズンには少しづつ、来年度の取組を織り交ぜながら、各自防災要素を取り入れた防災イベントをしてみたいかが。



詳しくは、まちだ防災カレッジポータルサイトに掲載しております。ぜひご覧ください。

担当者にインタビュ

# 「地域備蓄」毛布等災害用備蓄物資

## 地域備蓄 という新しい考え方

地域備蓄とは…

2023年度夏、新しい試みとして「地域備蓄」という考え方を導入しました。昨今では、予想できないゲリラ豪雨や火災による町内会館への避難が必要とされる機会が増えています。

これに備える形で、自主防災組織でも備蓄の充実を進めていただいておりますが、非常用電源や備蓄食といった備蓄の優先順位が高く、毛布やブルーシートまで備蓄するところまでいっていないのが現状であるとの声をいただいております。そこで、地域自主防災組織の判断ですぐに使用できる「地域の無償貸与を行いました。」

**143組織**に対して、**毛布は4000枚**、**ブルーシートは、東京ドーム1.8個分相当量!**

8月21、23、24、30の計4日間、要望のあった143の自主防災組織に対して配布しました。途中のゲリラ降雨により、一時中断した時間帯もありましたが、なんとか無事、お渡しできてホットしました。毛布4000箱(4000枚)、ブルーシートは456枚(東京ドームに換算すると1.8個分相当面積)の配布しました。

## デジタル化への 抵抗感を減らす

今回の備蓄物資の配布では、オンラインで申し込みを受け付けました。デジタル化とペーパーレスが加速していく現代社会。災害時に迅速な情報収集を行い、それを有効活用するためにも、この波にうまく乗っていくことも必要です。

できないから諦めるのではなく、平時のうちから共助の考えに基づき、「わからないから教えて!」と教えることが重要です。ご家族や自主防災組織内でわかる人に教えてもらいながらまずはアクセスしてみる第一歩から初めて欲しいと思います。実際に、電話口でやり方をレクチャーしながら受付をした際には、「もう終わったの? やってみたら案外簡単! これQRコードの読み取りも便利だね!」といった意見も。防災課からのお知らせや研修会等の抵抗を減らして欲しいと思います。

## 受け取りの御礼

会場(教育センター)の利用日の関係上、平日の午前中の開催という点もあり、仕事を調整してきていただいた方も多かったです。使い慣れていない会場で、初めてのお渡し会でしたが、大部分の組織が、予めご案内していたタイムスケジュールや注意事項をしっかりとご確認いただいたおかげでスムーズにお渡しを実施できました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



早速、次回開催のご要望もいただいておりますので、また次回開催が決まりましたら改めてお知らせします。

## 備蓄の引き渡しを 実際に終えてみて

### 孤軍奮闘をどう捉えるか

毛布やブルーシートは重たくて大きいものです。大量の備蓄物資を前に隊長さん一人でも何往復もする自主防災組織の姿もありました。平日の午前中ということで、難しさもあつたかと思えます。災害時はもちろんですが、平時のうちから互いに声を掛け合っているうちに助け合える関係性の構築ができていいるか考える契機にしてほしいと思います。



## インフォメーション

- 防災WEBポータル**  
発災時、避難施設の開設状況などを確認できます。
- まちだ防災カレッジ Instagram**  
イベント情報や防災に関する情報を発信しています。
- 東京都町田市(防災・安全・気象情報)(町田市公式)**  
防災・気象・地震情報などを配信しています。

- キキクル**  
大雨などで発生する恐れのある、土砂災害、新水害・洪水の危険度分布を確認できます。
- まちだ防災カレッジポータルサイト**  
町田市防災における普及啓発に関する取り組みを集約しています。避難施設での取り組みも今後PR予定です。



**記事担当者  
地域防災担当  
M**

防災課2年目。町田育ちで市内の道はほぼ網羅。学生時代は長距離ランナーとしても活躍し、武相マラソンでも入賞歴ありのアスリート。得意料理は、筑前煮。私はホクホクよりねっとりな焼き芋が好きです。

協力し合える組織は  
どんな時でも力を発揮できる

防災課の印象に残っているのは、組織内で互いに声を掛け合っている積み込みを行っていた光景です。市頼りにならずに自分たちで考え、自分たちで行動できる組織は、とても頼もしく感じました。こういう体制が取れている組織は、平時、災害時問わず、どんな時でも一致団結し、力を発揮できると思います。

## PickUp ペット同行避難



### 「ペット同行避難について」

ペットと災害を乗り越えるためのポイントや、シリーズでお伝えしていきます。

### 〈災害発生時に慌てないために〉

- ①避難場所・避難経路等の確認
- ・災害が起こったら、まずは自身の安全を確保しましょう。飼い主が無事でなければ、ペットを守ることはできません。避難が必要な場合は、原則ペットと一緒に避難しましょう(同行避難)。速やかに避難できるように、普段から、家族で最寄りの避難場所や避難経路について確認しておきましょう。



- ◆事前に確認しておきたいこと
- ・住まいの安全
- ・ペットの居住スペースの安全
- ・避難場所
- ・避難経路
- ・ペットを連れての避難方法
- ・家族間の連絡方法
- ・避難の時に持っていくもの